

TECドクターによる助言（鹿児島県技術検討部会）

令和5年7月31日に令和5年度第1回鹿児島県技術検討部会の中で道路橋、トンネル等において地域の様々な症例の知見・知識を共有していくことにより、道路施設管理職員の技術力向上や今後のマネジメント（維持管理）等へ展開される事を目的とし、継続的に橋梁等の保全の症例検討会を開催し、持ち込まれた症例について助言等を頂いた。

出席者：鹿児島大学学術研究院 審良准教授、道路部道路管理課、鹿児島国道事務所、鹿児島県、外自治体

会議風景



症例発表



診断・講評



TEC-Doctor
鹿児島大学 審良准教授

【TEC-Doctorの見解】

【症例1】（指宿市）湯ノ郷橋

- ・中空部分に滞水してしまっていることが原因なのではないかと思われる。
- ・コンクリートの品質試験について、圧縮強度だけではどうやってひび割れが入ったのか、判断するにはすごく難しい事案だと思われる。間違った補修をすると余計悪いことになったりする可能性もあるので、詳細調査等を実施し、補修対策を選定された方が良い。

【症例2】（いちき串木野市）宇都跨線橋

- ・跨線橋ということで特殊なので、より第三者影響を考慮して補修しなきゃいけない。
- ・亜鉛と鉄が接触するとどうしても水素が発生してしまう。すると、ボルトの脱落要因の1つである水素脆化というのが起こりやすい状況をつくってしまう。なので、50年持ったから今後も大丈夫ということにはならず、今後の腐食の進向によって変わってくる。
- ・床版については、できれば応急措置になるが落としてしまうと、鉄は裸の状態になってしまうので、例えば防錆剤を塗る等何らかの形で腐食を防ぐような措置をしておく、より長持ちするかと思われる。